

図書館だより

令和7年 4月 天理高校図書館

新学期が始まりました！！

★天理高校図書館は毎月「図書館だより」と「新着図書紹介」を発行しています。「図書館だより」では季節にあわせた特集や、話題の本を紹介しています。毎月届く新着図書はみなさんからのリクエスト本もたくさん含まれています。紹介された本はすべて図書館に置いてありますので、気になった本があれば、ぜひ図書館に来て、手に取ってください。どこにあるかわからない時は、遠慮なく尋ねてください。(*^_^*)

★「先生からのおすすめ本」「図書館からのおすすめ本」を紹介します。

先生と図書館からの推し本です。読書が苦手な人、ぜひ楽しんでください。

★図書館は月～金は8時30分から19時まで 土は14時まで開館しています。休み時間も開館していますので、ちょっとした隙間時間ご利用いただけます。

「先生からのおすすめ本」

『風が強く吹いている』

三浦しをん 著 新潮社



白髭先生は、4月より天理中学に転用となりました。1年間大変お世話になりました。

人付き合いが苦手な主人公、蔵原走が、もう一人の主人公で陸上部の主将を務める清瀬灰二に出会い、個性的な仲間達と共に箱根駅伝を目指す物語です。

青春を感じられる作品ですが、青春ものがあまり好きでない人ものめりこめる作品だと思います。主人公が成長して行く中で、仲間の大切さを感じます。「速さ」を競う駅伝で本当に必要な「強さ」とはなんなのか、たくさん考えさせられる作品です。陸上部の物語ですが、何か頑張っていることや、目標がある人は自分のことに置き換えて考えることができます。

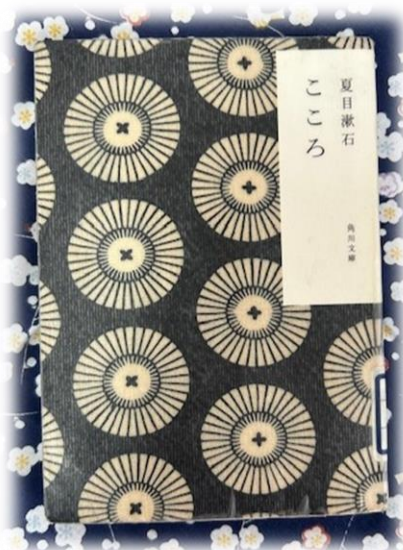
(数学科 白髭洋介 先生)

『ころ』

夏目漱石 著 集英社

「文学国語」の教科書にも『ころ』は収録されていますが、「下 先生と遺書」しか載っていません。(全て授業で取り扱うとなると一年間『ころ』をしないといけなくなるので仕方ないのですが...)。ですから、私と先生の関係性や境遇を知ってもらうためにも、ぜひ全編読んでほしいと思います。三角関係から生まれたエゴイズム。現代でも有り得そうな感情がとんでもない展開に繋がっていきます。一度読むだけではなく、これから様々な経験を重ねていく中で、定期的に読むことで、先生の「ころ」から感じ取れる内容や印象も変わってくると思います。

(国語科 森下心先生)



図書館から
お知らせ

春休み期間に、本を借りた人は、返却するか、貸出を延長しにきてください。ご協力お願いします。



「図書館からのおすすめ本」

『人魚が逃げた』

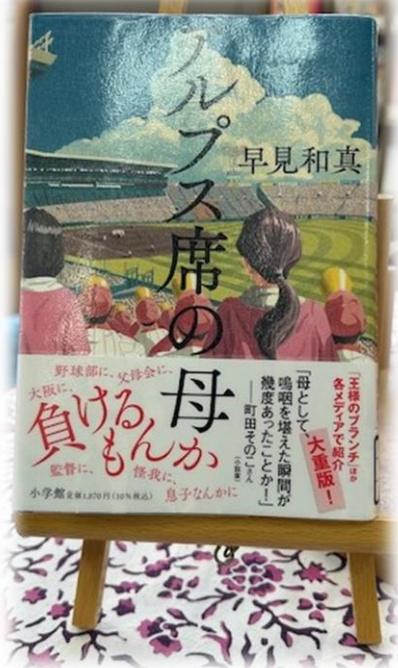
青山 美智子 著 PHP 研究所



SNS では、「人魚が逃げた」がトレンドいり。週末の銀座の歩行者天国で、一人の王子様が「僕の人魚が、いなくなってしまう...」と、人魚さがしをしているらしい。この人魚姫に登場する王子様は、コスプレイヤーなのか、何なのか?!銀座の町に集う人々が王子様と出会い、それぞれ人生が少しずつ動いてゆきます。作者の青山さんは、4年連続本屋大賞ノミネートされています。今年は、いかに!!というところでしょうか。田中達也さん作の表紙をよく見てください。この本の登場人物が隠れているかも... (#^_^#)

『アルプス席の母』

早見和真 著 小学館



高校球児にとって、甲子園はあこがれの場所。そこを目指して練習する子どもたちとともに、彼らの親たちにとっても大きな目標である甲子園とは何だろう。これまでの甲子園をテーマにした作品は、選手が主役でしたが、この作品は母親目線で書かれています。高校選び、親どうしの関わり、監督に対する思い、これまで書かれてこなかったことが、ストレートに書かれています。

けがや挫折を乗り越えた先に見える景色の美しさを感じることができる、心が震える作品でした。

ラブラリーネーム・

べにはち
紅八さんからの

「おすすめ本」

『星旅少年』1～5巻

坂月さかな 著
パイインターナショナル



独自性のある世界の中で旅をする少年の物語。非現実世界を味わうことができ、その世界に入りこんでつい読み耽ってしまいます。不思議な世界観に片足でも踏み入れてみれば、面白くなりそして興味もわいてくるでしょう。この本の世界に没入し、「どうなるだろう?」と、わくわくしながら読み進めてください。ぜひ、そんな感じの世界観を味わい、そして楽しみたいという人は読んでみてください。